第2節 おこづかい

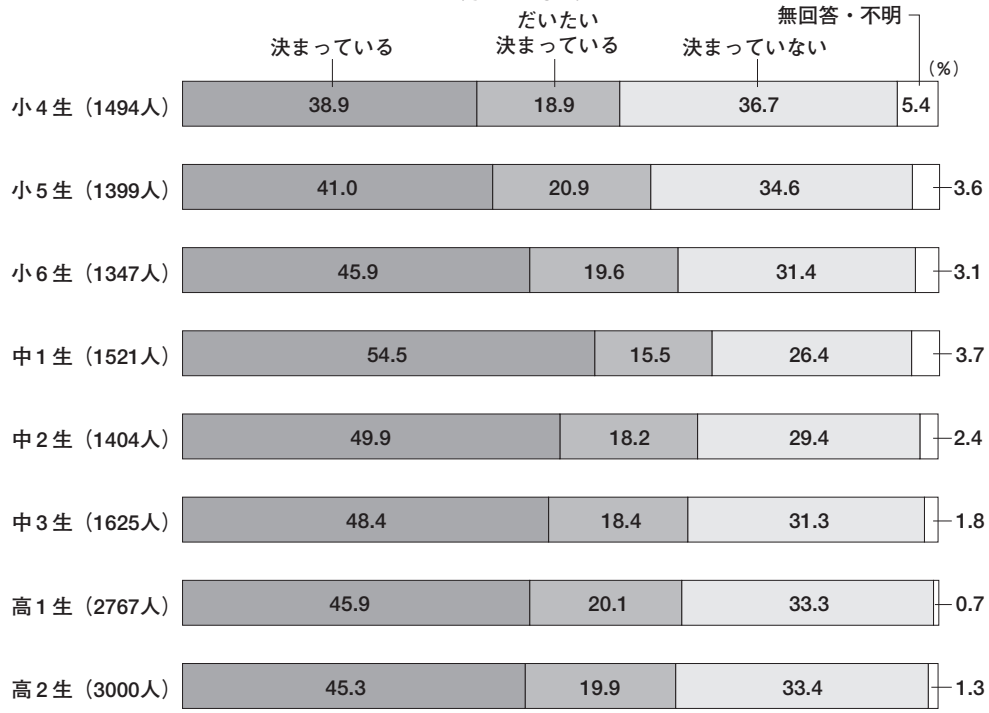
おこづかいは中１生で最も厳格に決まっている。お金の管理については、しっかりと管理しているのが多数派である。使い道では、学年が上がるほど欲しいものが増え、幅広い消費財にお金を使っている様子がうかがえる。

◆最もおこづかいの金額が決まっている中１生

本節では、お金に関する項目をみてみよう。

まず、おこづかいの金額が決まっているかどうかをみる（**図１－２－１**）※。「決まっている」は、小４生の38.9%から中１生の54.5%まで徐々に上昇し、おこづかいが決まっていく様子がうかがえる。しかし、その後は徐々に減り、高２生で45.3%になる。中２生以降は、なんとなく額がルーズになったり、それ以外のお金を与えてしまったりすることが増えるということかもしれない。

■図１－２－１　おこづかい金額の決定の有無（学年別）



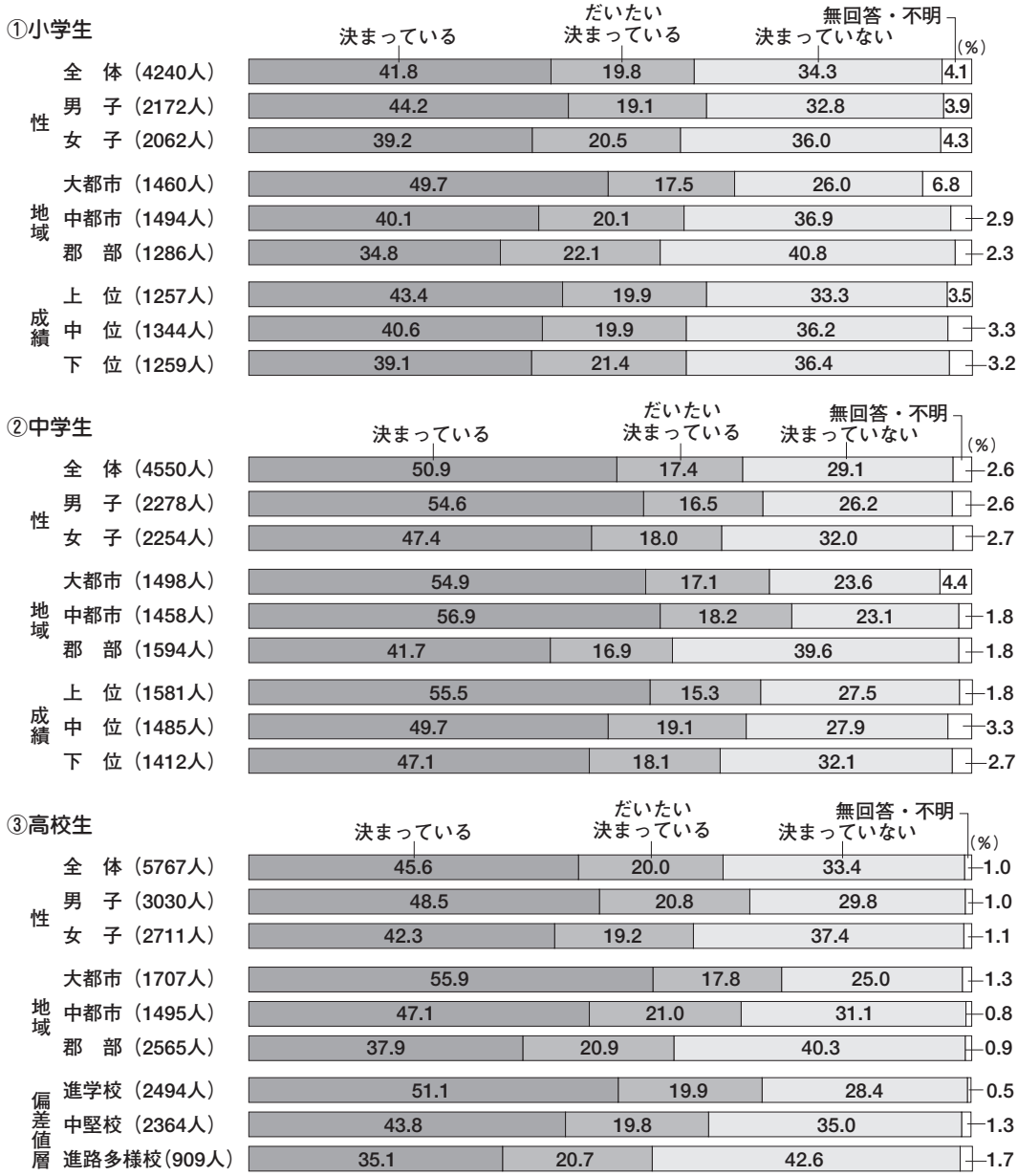
※このおこづかいの設問については、「無回答・不明」の多かった高校を学校単位で分析対象から除外している。この設問では、「もらっていない」という選択肢を設けなかったため、「決まっていない」と回答したケースを中心に、「あなたは家の人からおこづかいなどで月にいくらくらいもらっていますか」という次の設問で、「０円」と回答したケースが５～10%みられる。

◆おこづかいに性差、地域差、成績・高校偏差値層差

さらに、学校段階ごとに、性別、地域別、成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）別にみたものが**図１－２－２**である。これによると、すべての学校段階で、女子より男子でおこづかいの金額が「決まっている」ケースが多い。また、地域別では、郡部に「決まっていない」ケースが多い。成績別では、小学生では大きな差異はみられないものの、中学生では成績上位層のほうが「決まっている」ケースが多く、高校でも偏差値層が高いほど「決まっている」ケースが多い。

ジェンダーや、地域、成績・高校偏差値層に応じたおこづかいに関する文化の差が明らかにあり、興味深い。

■図１－２－２　おこづかい金額の決定の有無（性別、地域別、成績・高校偏差値層別）



注）成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって３区分した

◆子どもたちはしっかりお金を管理

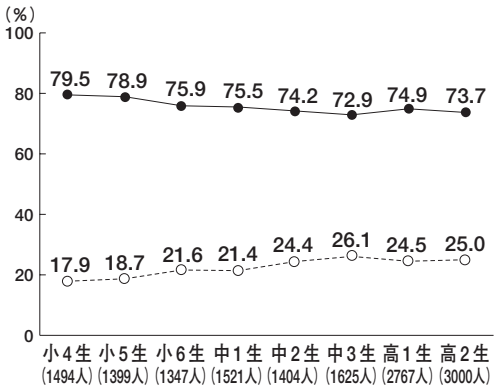
次に、お金の使い方に関する質問項目をみる（**図1－2－3**）。全体的に、子どもたちはそこそこしっかりとお金を管理している。多くの子どもたちは、「むだづかいをしないようにしている」し、「欲しいものを買うためにお金をためる」といった計画性をもっている。そして、「おこづかいがたりなくて、親にほしいものをねだる」という子は多数派ではない。ただし、「おこづかい帳をつけるようにしている」ほど、綿密に管理しているのは少数派で、学年を追うごとにさらに減少し、中2生以降は1割を切る。

それぞれに「とてもそう」＋「まあそう」と答えた割合について、学年ごとに細かくみてみると、「むだづかいをしないようにしている」は、学年を追うごとに少しずつ減少し、お金の管理が少しずつルーズになっていく様子がわかる。また、「欲しいものを買うためにお金をためる」のは、小6生までに少しずつ増え、計画性が徐々に身についていく様子がうかがえるが、その後減っていき、今度は少しルーズになっていくのかもしれない。「おこづかいがたりなくて、親にほしいものをねだる」のは、中2生まで徐々に増えた後、高校生になっていくにつれて再びしっかりしてくる。これらの変化には、次にみるおこづかいの額や欲しいものの金額の変化のほか、主観的な評価基準の変化なども関係しているだろう。

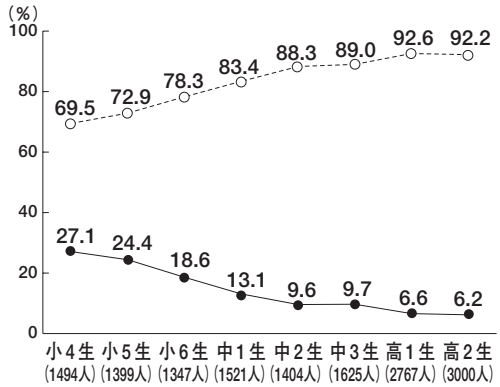
■図1－2－3　お金の管理（学年別）

①～④は
—●—「とてもそう」＋「まあそう」の％
--○--「あまりそうでない」＋「ぜんぜんそうでない」の％

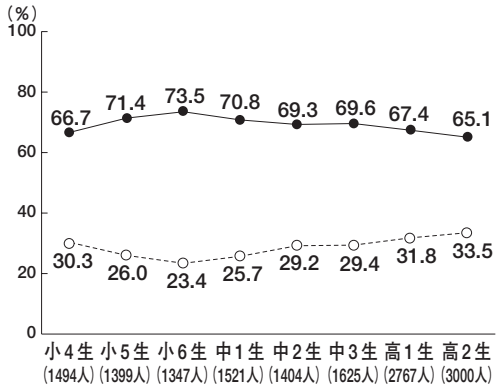
①むだづかいをしないようにしている



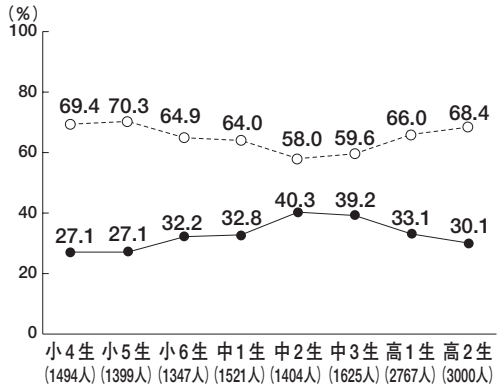
②おこづかい帳をつけるようにしている



③欲しいものを買うためにお金をためる



④おこづかいがたりなくて、親にほしいものをねだる



◆家の人からもらうおこづかいは、小学生1000円、中学生2500円、高校生5000円

それでは、子どもたちは、家の人から具体的にいくらおこづかいをもらっているのだろうか。

各学年の子どもが家の人からもらっている額の平均を、地域ごとに示したのが**表１－２－１**である（もらっている額の分布は、基礎集計表参照）。高額なおこづかいをもらっている子もいるが、平均は、小学生1115円、中学生2559円、高校生5379円と、ごく常識的な額と思われる。額は学年が上がるとともに増えているが、とくに小学生から中学生へ、中学生から高校生へと学校段階が変わるときに、大幅に増えている。

また、郡部は大都市や中都市に比べて、高校生の額が少なくなっている。子どもへ与えるお金に厳格なのかもしれない。

◆年齢とともに広がる世界と消費行動

最後に、お金の使い道をみてみよう（**図１－２－４**）※。

「本・雑誌・マンガ」「食べ物・飲み物・おかし」「貯金」「おしゃれに必要なもの（服や化粧品など）」「CD・DVD」など、このあたりが、多くの子どもたちがお金を使いたいと思い、かつ、自分の裁量で買えるものなのであろう。

なお、「その他」の自由記述では、小学生だと、家族や友だちへのプレゼント、プリントシールが多く、中学生では、それらに加えて、漠然と遊ぶときのお金といった回答や、映画、釣具、楽譜などの趣味に関するものが多くあげられた。高校生では、部活動に必要なものや映画のほか、趣味関連でも楽器やバンドの費用、パソコン関係、バイクなどやや高額なものが多くあげられた。

学校段階別にみてみると、学校段階が上がるほど増えるのが「食べ物・飲み物・おかし」「おしゃれに必要なもの（服や化粧品など）」「CD・DVD」「携帯電話（PHS）」「コンサートやお芝居」である。それに対して、逆に減るのが「貯金」「学習に必要なもの（文房具など）」「ゲームソフト」「おもちゃ・グッズ」である。思春期になるにつれて、おもちゃやゲームから卒業するが、他に欲しいものが増えて貯金に回せないということだろう。使い道は、学習に密着したものから、より広範囲な趣味や社交のための消費財へと変わっていく。

◆使い道に性差、進路多様校ほど「今時の高校生」

性差が大きかった項目が**表１－２－２**である。「ゲームソフト」や「スポーツ用品」は男子が、「本・雑誌・マンガ」「おしゃれに必要なもの（服や化粧品など）」「学習に必要なもの（文房具など）」は女子が、学校段階にかかわらず多く選んでいる。女子では、学校段階が上がると、「学習に必要なもの（文房具など）」が減り、代わりに「おしゃれに必要なもの（服や化粧品など）」が増えるが、小学生ごろの女子にとって文具などは一種の「おしゃれ」の対象なのかもしれない。これらの性差は、常識的に想像できる結果であり、子どもたちの好みや消費行動にもジェンダーステレオタイプが反映していると言える。

また、小・中学生では、成績とお金の使い道で関連はみられなかったが、高校生では、偏差値層とお金の使い道に関係がみられた（**図１－２－５**）。使い道の順位を大きく変動させるほどの差ではないので、全体としては学年が上がるほどいわゆる「今時の」消費財に関心を示すと言えるが、「食べ物・飲み物・おかし」「おしゃれに必要なもの（服や化粧品など）」「携帯電話（PHS）」「カラオケやゲームセンター」など、とくに「今時の高校生」のイメージと結びつきやすい消費財は、進路多様校で選択率が高かったのは興味深い。それに対して、「学習に必要なもの（文房具など）」は、進学校で選択率が高い。

※調査票では14項目中「たくさん使うものを３つまで」選択してもらったが、４つ以上回答したケースが２割以上あったので、その場合も集計に加えた（図１－２－４・５、表１－２－２も同様）。

■表１－２－１　家の人からもらうおこづかい（学年別、地域別）

	大都市	中都市	郡部
小４生	745円	1021円	1023円
小５生	1153円	962円	1187円
小６生	1200円	1370円	1406円
中１生	2342円	2177円	1719円
中２生	2435円	2962円	2151円
中３生	3584円	2762円	2764円
高１生	5199円	5389円	4562円
高２生	6150円	6357円	5118円

平均金額

小学生　1115円

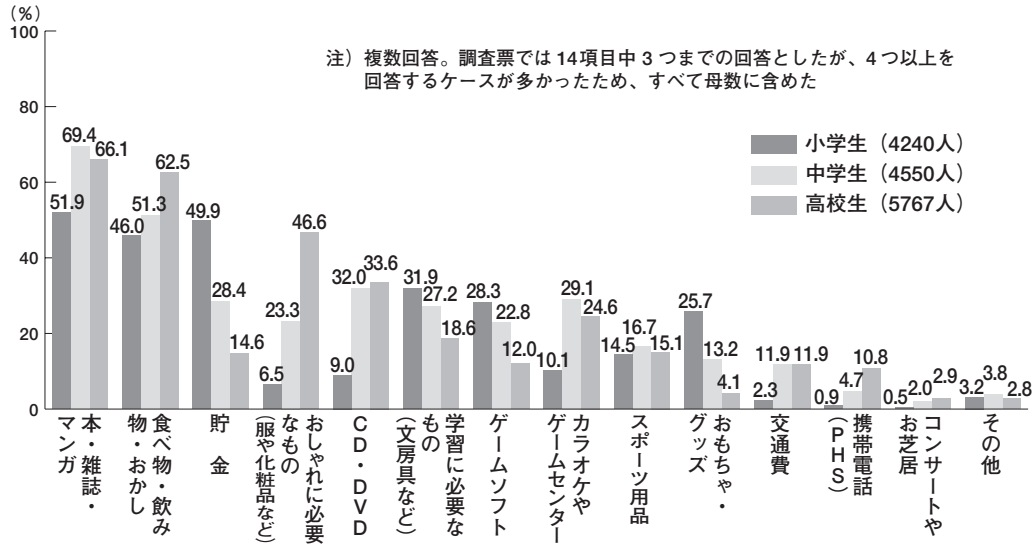
中学生　2559円

高校生　5379円

注１）回答があったもののうち、０円のケースと、外れ値として10万円を超える額の回答（中学生４人、高校生７人）を除いて算出

注２）小学生（大都市1098人・中都市1132人・郡部 998人）
中学生（大都市1088人・中都市1256人・郡部1178人）
高校生（大都市1425人・中都市1274人・郡部2066人）

■図１－２－４　お金の使い道（学校段階別）



■表１－２－２　お金の使い道（学校段階別、性別）

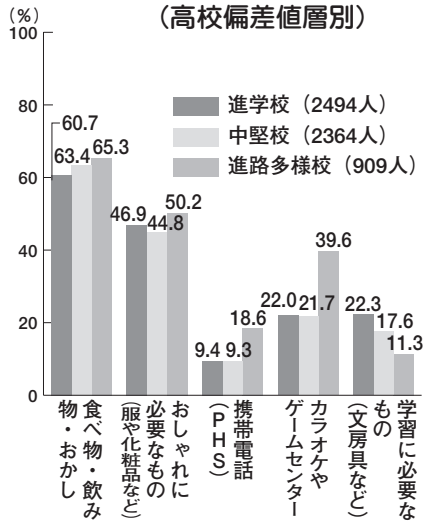
（%）

	小学生 男子（2172人）	小学生 女子（2062人）	中学生 男子（2278人）	中学生 女子（2254人）	高校生 男子（3030人）	高校生 女子（2711人）
本・雑誌・マンガ	46.2	<58.0	65.1	<73.7	65.1	67.1
貯　金	48.6	51.4	32.2	>24.5	15.3	13.9
おしゃれに必要なもの(服や化粧品など)	0.5	<12.8	11.1	<35.6	34.0	<60.7
CD・DVD	7.8	10.2	32.2	31.6	40.0	>26.5
学習に必要なもの（文房具など）	18.8	<45.7	21.1	<33.4	14.3	<23.6
カラオケやゲームセンター	9.8	10.3	19.2	<39.2	20.3	<29.6
ゲームソフト	45.8	> 9.8	39.4	> 5.9	20.4	> 2.6
スポーツ用品	21.8	> 6.7	27.0	> 6.2	24.2	> 4.9
おもちゃ・グッズ	30.7	>20.4	13.3	13.1	4.1	4.1

注１）学校段階ごとに、男女で５ポイント以上差があったものに<>。差があったもののみ掲載

注２）複数回答。調査票では14項目中３つまでの回答としたが、４つ以上を回答するケースが多かったため、すべて母数に含めた

■図１－２－５　高校生のお金の使い道（高校偏差値層別）



注）複数回答。調査票では14項目中３つまでの回答としたが、４つ以上を回答するケースが多かったため、すべて母数に含めた